

図書館における資料のデジタル化への取組

東北大学附属図書館 早瀬 均

はじめに

附属図書館では、平成 12 年 2 月に中長期計画を『東北大学附属図書館の将来構想』として刊行し、そのなかで、図書館活動のあらゆる側面についてデジタル化を図ることにより利用者の情報へのアクセスと利便性の向上を図ることを課題としている。なかでもコンテンツの整備は、図書館の重要な役割のひとつであり、特に本学が所蔵する優れたコレクションをデジタル化し、ネットワークを介して提供することは本学の使命とも言える重要な課題である。平成 11 年 4 月より、デジタル化を進める体制づくりの一環として電子情報掛が設置され、デジタル化への本格的な取り組みが始まっている。今回の特集であるマルチメディア研究情報ライブラリシステムは、図書館のデジタル化には不可欠のリソースとなっているが、先ず図書館における資料のデジタル化の状況から紹介することにした。

資料デジタル化のプロジェクト

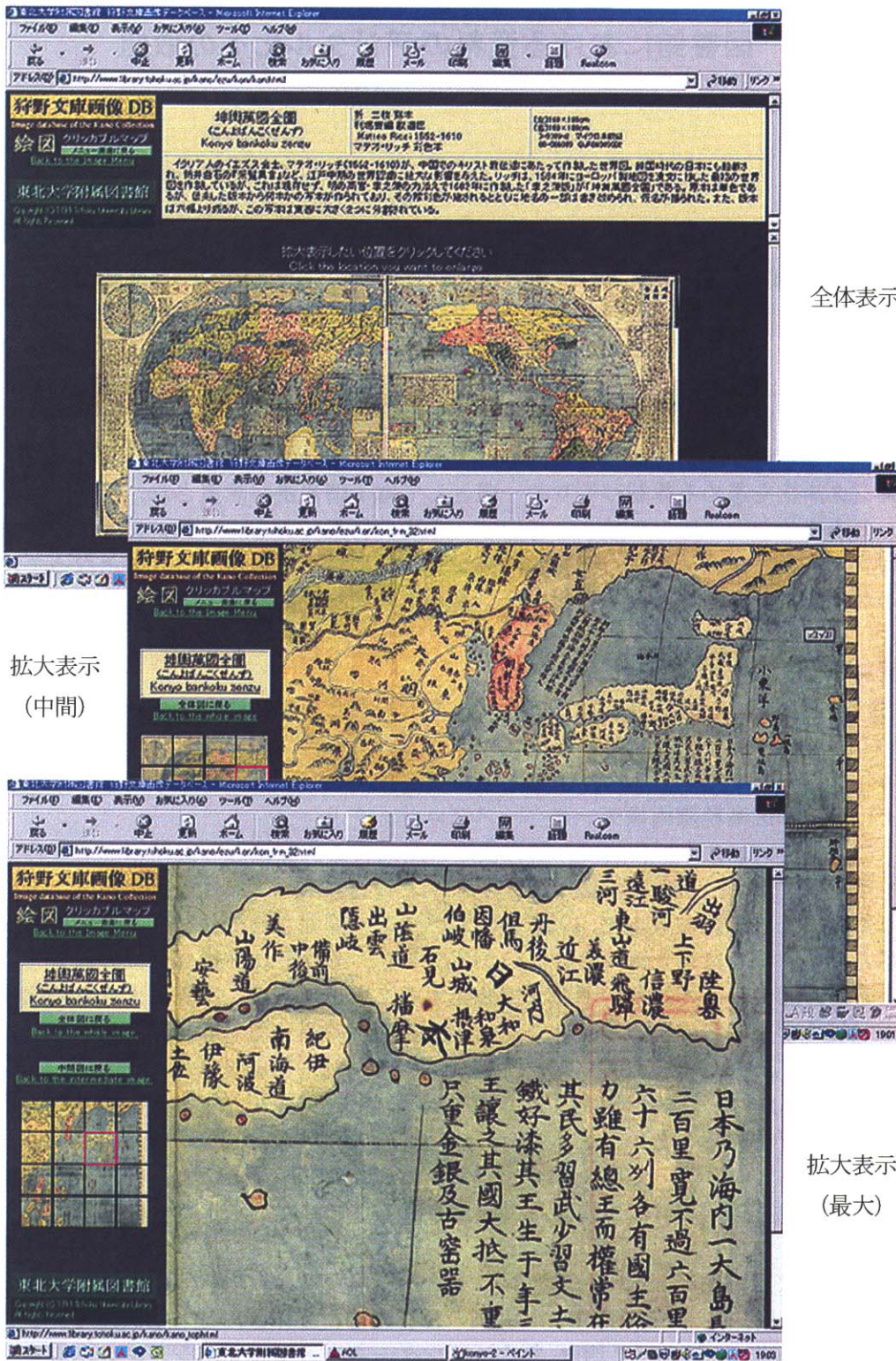
資料のデジタル化については、プロジェクトのかたちで幾つかの作業が進行しているもので、その中からすでに公開が始まっているものについて以下に紹介する。

1) 大型絵図高精細画像データベースプロジェクト

このプロジェクトの目的は、研究使用に耐え得る大型絵図の高精細画像を作成することである。例えば、図 1 は、イタリアの宣教師マテオリッチが中国で出版した坤輿万国全図の写本で、1992 年にスペインで開催されたセビリア万博にも出品された。現物は東と西の 2 枚に分かれており、それぞれが畳 2 畳位の大きさであるが、画像として細かい部分まで確認することができる。実際に大きな絵図を取り扱うのは大変であるが、スクリーン上ではどの部分でも容易に見ることができる。他に、『江戸大絵図』(1682 刊)、『京大絵図』(1686 刊)、『小加呂多』(海図)、『天草島図』(1661 年写)、計 5 点を同様にデジタル化しており、いずれもホームページで見ることができる。これらの元ファイルの解像度は 300dpi~450dpi で、大きいものではファイルサイズが 1.7GB になっているが、どの程度の解像度にするかは、絵図の詳細さによって決定されることになる。

2) 狩野文庫画像データベースプロジェクト

狩野文庫は、「江戸学の宝庫」、「古典の百科全書」と称される本学が誇るコレクションのひとつであり、利用も多く、インターネットでコレクションの内容を提供することは研究者にとって非常に有用なサービスであると考えている。現在和書約 25,000 点 55,000 冊の目録検索が可能となっており、昨年度は、絵本、絵巻、

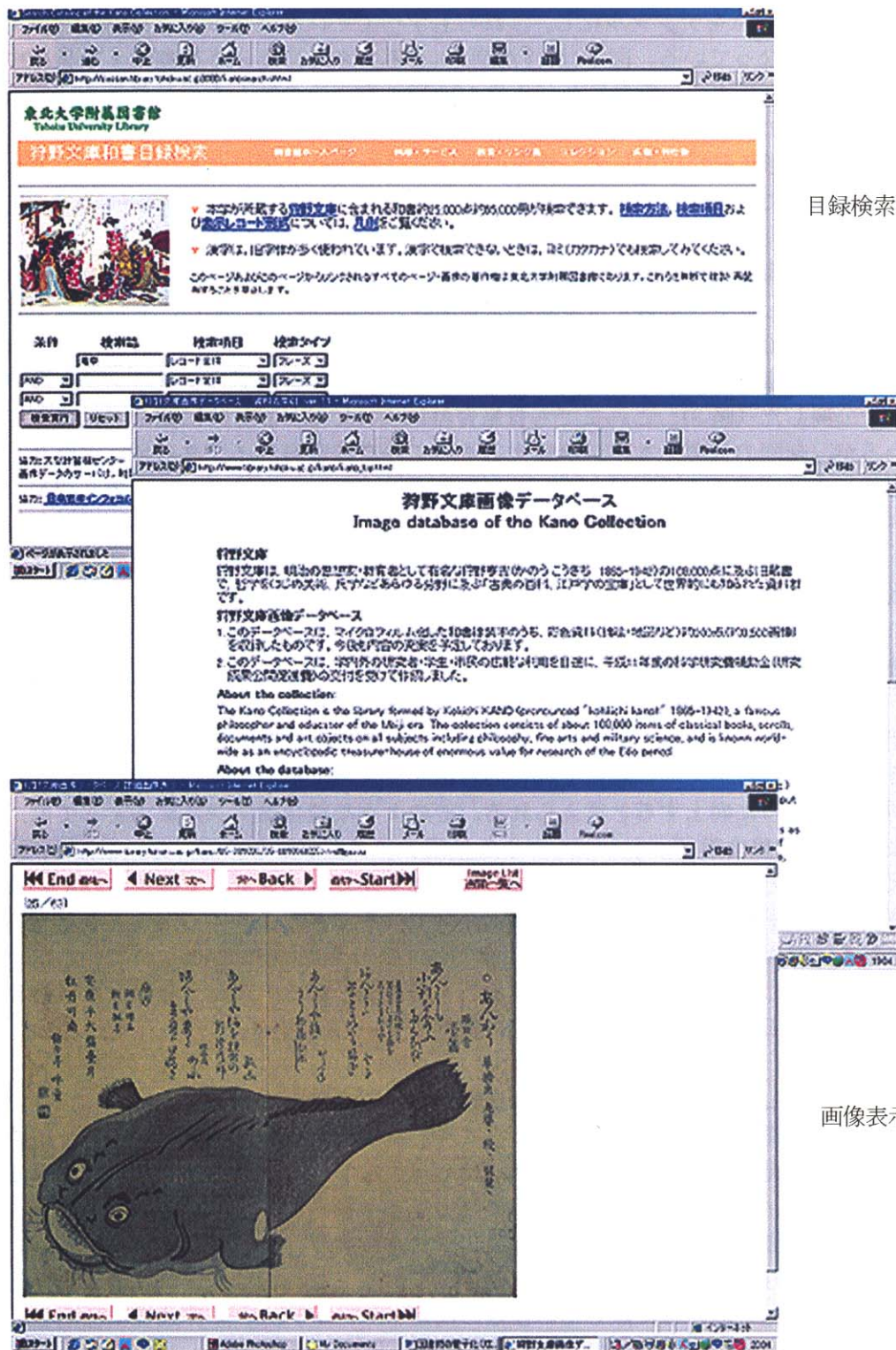


全体表示

拡大表示
(中間)

拡大表示
(最大)

図1 大型絵図高精細画像データベースの例 (『坤輿万国全図』)



目録検索

画像表示

図2 狩野文庫画像データベースの例（『海幸』1762年刊）

絵図関係 200 点をデジタル化し、これらもすべてインターネットで見ることができるようになっている。図 2 は、『海幸』（うみのさち）という初期（18 世紀中期）の多色刷絵本で、魚や貝など凡そ 100 種の海産物の絵とその海産物を取り上げた江戸座の俳句が付されたものである。

今後は、彩色資料に限らず、利用の多い部分を中心にデジタル化を行い、インターネットで公開をしていく計画である。

3) 漱石文庫画像データベースプロジェクト

漱石文庫も本学が所蔵する著名なコレクションのひとつである。夏目漱石が残した約 3,000 冊の蔵書を中心に、多数の自筆資料も含まれている。平成 12 年 4 月に漱石文庫に含まれる資料の目録検索と自筆資料の画像データをインターネットで公開した（図 3）。これまでも自筆資料については、部分的に紹介されてきているが、今回の公開で本学が所蔵するすべての自筆資料がインターネットを介して見るできるようになった。これによって新たな発見があり、漱石研究がさらに進展することを期待している。

今後の作業としては、漱石研究のもうひとつの重要な情報である蔵書の書き入れ部分のデジタル化に取り組むことを検討しているところである。

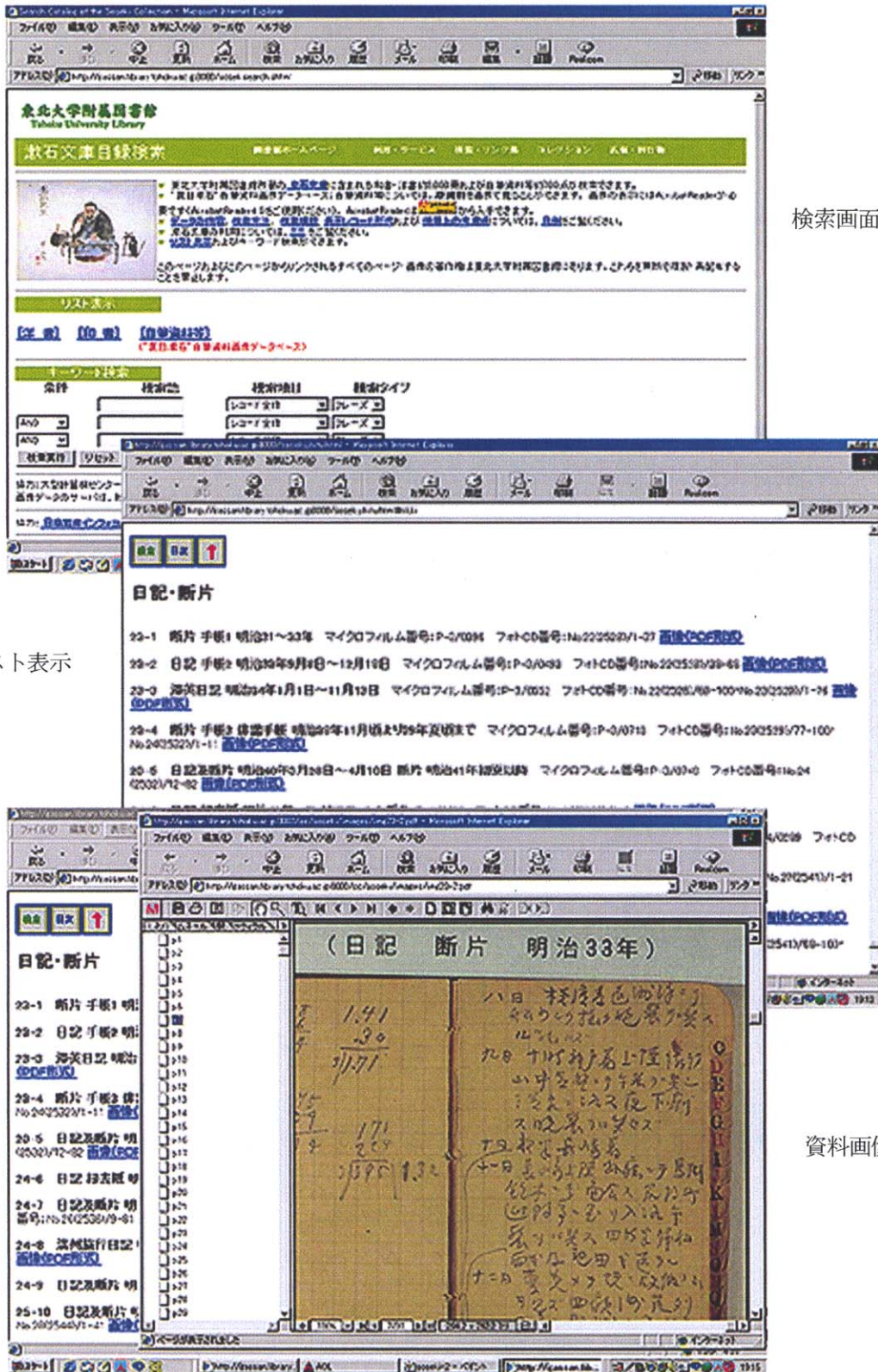
統合検索サービス実験

狩野文庫、漱石文庫以外にも本学には多数の特殊文庫があり、それらの目録のデジタル化も進められている。今後、いくつかの特殊文庫の目録検索が可能になると考えられるが、その際にそれらの目録をまとめて検索することができれば、利便性はさらに向上すると考えられる。そのような統合検索システムとしては、Z39.50 の情報検索プロトコールによる検索システムが知られている。これは、検索エンジンとインタフェースを分離して、様々な検索エンジンで提供されている情報検索サービスを同一のインタフェースで検索できるようにしようとしたものである。それ故、他の機関が作成し、Z39.50 サーバによって提供されているデータベースについても統合的に検索することが可能となる。現在、狩野文庫和書目録検索と漱石文庫目録検索を試験的に提供している（図 4）。

リソースとしてのマルチメディア研究情報ライブラリシステム

図書館が資料のデジタル化を進めるに当たって、大型計算機センターのマルチメディア研究情報ライブラリシステムは不可欠なリソースである。図書館には、マイクロフィルムから画像データが作成できるマイクロフィルム入力ユニット、高解像度画像表示ユニット、高解像度デジタルカメラ、フィルムスキャナーユニット等を含む「ステーション」が配置されており、これらは、資料のデジタル化やデジタル化を進めるに際しての仕様の決定・テストデータの作成等に活用されている。

また、上述した狩野文庫や漱石文庫の大容量の画像データについては、同ライブラリの Web サーバに蓄積させていただくことでハード面での手当てを心配す



検索画面

リスト表示

資料画像表示

図3 漱石文庫自筆資料画像データベースの例 (『日記』明治33年)

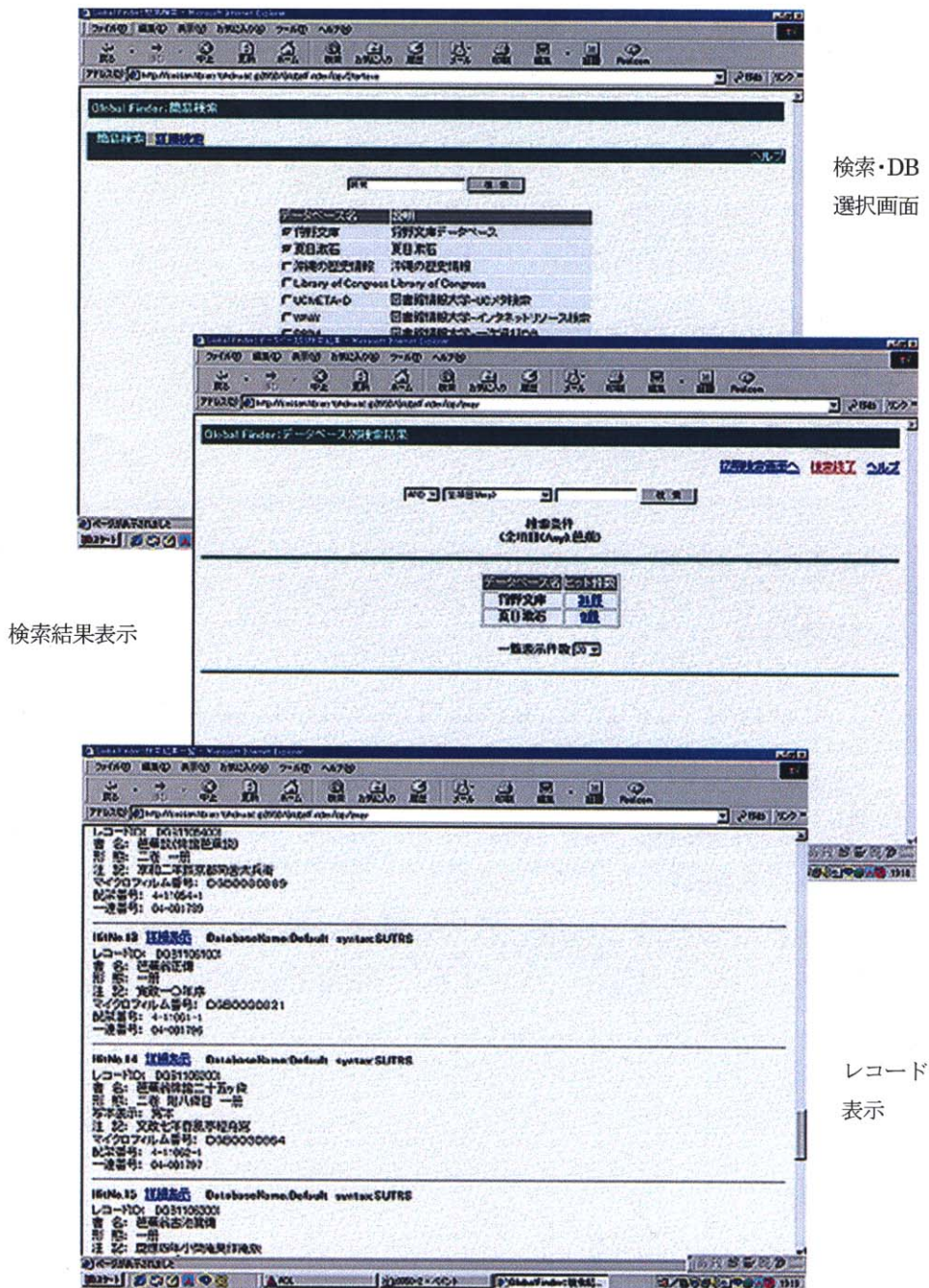


図4 Z39.50 検索とレコードの表示例